

# システム スクエア

# デザインコンペで大賞

## 食品の異物検査システムで コンパクト化と低価格化に成功

県内の企業が産業デザインを競う「ニイガタIDSコンペティション2009」の審査会がこのほど開かれ、システムスクエア(長岡市新産3)が制作した金属検出機、X線異物検査機、不良品の選別機からなる「食品の異物検査、自動選別システム」が大賞に選ばれた。開発に携わった同社デザイン部の斉藤寿満主任(35)は「今までなかったものを具体的に描いて見せるのがデザイナーの力量。これまでやってきたことが認められうれしい。受賞を励みに、さらに前進していきたい」と、喜びを語った。

同コンペは、にいがた産業創造機構(NICO)の主催で次代を担う地域発のブランドの育成を目指して行われている県内最大の産業デザインイベントで、毎年この時期に受賞が決まる。対象となる製品は、前回締め切りから1年以内に開発されたもので、今回は県内の製造業を中心に43社から54点の応募があった。このうち、3分の1が初参加企業で、同コンペでも初めてのことだという。

既存のシステムの3分の1に  
同社は、コンピュータープログラムなどの開発企業として1989年に創業。現在はメーカーとして、主に食品加工業者に金属検出機、X線異物検査機を納入している。同コンペへの出品は、今回が初めて。大賞を受賞した食品の異物検査、自動選別システムは既存の一般的なシステムに比べ3分の1にまで体積を減らしている。



特にX線異物検査機は、同社従来機に比べ、ほぼ半分のサイズにコンパクト化すると同時に低価格化も実現していることが特徴。小型化のメリットとしては、作業スペースをとらないことほかに、省エネルギー化、耐久力の向上などがあるが、異物検出精度が低下するデメリットがあった。同社では、コンピュータープログラムなどの開発能力を生かし、撮影した画像が異物を判断するデータ処理の精度を上げること、問題を解決した。また、小型化による機構の複雑化は、一般的にメンテナンスの作業ははん雑にするが、同システムでは部品一つひとつの



デザイン部の斉藤寿満主任

配置に工夫を凝らすことに対応している。このほか、同社が製造する金属検出機とインターフェイスを共通するなど、操作性にも気を使っている。

これにより、同時に使用することで、現場での作業効率の向上にもつながるといふ。

界の認知を広げたい  
同コンペ審査委員長の豊口協・長岡造形大学理事長は「これまで大型で高価だったシステムの導入を中小の食品会社でも可能にした点が優れている。コンパクトで安価なうえ、操作も簡単で、素人でも使いこなせる」と、同システムを高く評価している。

同社の斉藤主任は、「中小食品会社などでの導入を可能にすることもあるが、同商品は世界戦略機として開発した。海外の展示会では製品がコンパクトであることが技術力の高さ、独自性の説得力になる。そのためにミリ単位でサイズにこだわった。後発メーカーとして、小型化、低価格化を実現することで業界の認知を広げたい」と話している。

同コンペへの応募作品は23日―25日の3日間、三条市の県央地域会場産業振興センターで開催された展示会で一般公開された。市内の企業では、安達紙器工業がIDS賞を、足立茂久商店がIDS審査委員賞を、それぞれ受賞している。

▽IDS大賞Ⅱシステムスクエア「食品の異物検査、自動選別システム」(長岡市)

▽IDS準大賞Ⅱ諏訪田製作所「ネイルニッパー・ダマスカスレイヤー」(三条市)

▽IDS賞Ⅱ荻神工房「苔の種」(新潟市)、広野産業「切れ丸鋸 園芸セット」(三条市)、ナカヤ「ハイブリッド式集じんアダプター」TORNA DO(三条市)、安達紙器工業「ねんねくん」(長岡市)